

成果の説明書

(氏名) 齋川 貴嗣	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 国際連盟研究</p> <p>研究分担者として実施してきた科研費研究課題「アジア太平洋における国際連盟—新たな国際連盟史の構築と発信」(17H02496)に関し、研究成果として以下の英文論文集が出版された。</p> <p>Christopher R. Hughes and Hatsue Shinohara eds., <i>East Asians in the League of Nations: Actors, Empires and Regions in Early Global Politics</i>, London: Palgrave Macmillan, 2023.</p> <p>➤ 知的協力国際委員会研究</p> <p>上記英文論文集に知的協力国際委員会に関する論文を寄稿した。</p> <p>Takashi Saikawa, 'Intellectual Entanglements between the League of Nations and East Asia: Modernism or Anti-modernism?', Christopher R. Hughes and Hatsue Shinohara eds., <i>East Asians in the League of Nations: Actors, Empires and Regions in Early Global Politics</i>, London: Palgrave Macmillan, 2023, pp. 101-118.</p> <p>また、2022年5月12日～13日までジュネーブにて国際会議 Centenary of the International Committee on Intellectual Co-operation of the League of Nations が開催され、以下の通り研究報告をオンラインで行った。</p> <p>Takashi Saikawa, 'Nationalism and Internationalism in Intellectual Co-operation: Aikitsu Tanakadate and the Romanization of Japanese Language', International Conference of the Centenary of the International Committee on Intellectual Co-operation of the League of Nations, the United Nations Library and Archives Geneva, Geneva, 13 May 2022.</p> <p>➤ 国際文化交流史の理論的検討</p> <p>日本国際文化学会 20 周年記念事業として進められている『国際文化学事典』プロジェクトにおいて「国際文化交流と国家」分科会を担当し、所属メンバーとともに共同研究を進めている。研究成果の一部を 2023 年 7 月の第 22 回日本国際文化学会全国大会で報告する予定である（共通論題「『国民国家以後の時代』の国際文化交流再考—理念、主体、媒体を中心に」）。</p> <p>② 教育</p> <p>2023 年 2 月 5 日から 10 日まで、3 年ぶりに台北にて海外フィールドワークを実施した（参加者 12 名）。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>以下の通り学会活動に従事した。</p> <p>日本国際文化学会常任理事、年報編集委員会</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>研究については、第一に、ICIC 設立 100 周年会議での報告を論文化し、出版を目指す。第二に、国際文化学会の『国際文化学事典』の項目執筆に注力する。第三に、新型コロナによる制約も少なくなったため、ユネスコ・アーカイブス等での資料調査を再開する。</p> <p>教育については、2023 年度も海外フィールドワークを実施する予定である。</p>	